

働く人 写真で発表

柿崎中 市内へ職場見学

働く人の姿を写真に収め、発表を予定している上越市立柿崎中の一年生百二人は二十日、上越市内で職場見学を行った。働く人を撮影し、仕事に対する思いなどを取材した。

一年生は十年後に柿崎にあつてほしい職業を考えるため、前半は柿崎について知り、後半はさま

ざまな職業について調べてきた。一月末からは「柿中『TJB仕事』ギャラリー」をつくろうと活動。上越教育大と連携し、生徒が社会で働く人の姿をカメラに収め、仕事に対する思いをボスターにしてまとめて発表を予定している。写真集の製作も行う。生徒は事前にデジタルカメラの操

作法を学び、写真撮影やインタビューの極意を学んで職場見学に備えてきた。

職場見学は四十六人の班で、スパーやホテル、病院など十三カ所を訪れた。そのうち直江津駅前商店街を見学した班

は、数店を回り写真撮影やインタビュー。三野屋菓子店では菓子をつくる人の様子などを撮影し、「どうやってこの仕事に就けますか?」「働いてうれしかったことは?」などと次々に質問を投げかけていた。

25年毎月休み

米峰会 肅々と

毎月休み無く二十五
年。昨年十二月で三百
回目を開いた旬会があ
る。柿崎区岩手の就業
改善センターを会場に
する「米峰会」だ。会
の中心は同区芋島、楞
厳寺(りょうこんじ)
の石黒英進住職
(63)。俳号は杉月庵
(さんげつあん)。厳
格な規律に従う修行僧
時代に唯一、心を遊ば
せるすべとして俳句に
親しんだ。処女句集

『永平寺』は当時の俳
壇から「現代の山頭
火」と評され、修行に
耐える孤独な心の表出
が話題になった。
就業改善センターが
完成し、その利用促進
にと当時のセンター長
から勧められて、何気
なく旬会を開いたのが
昭和五十七年の一月。
以来、途切れることが
なかった。古くからの
会員は「それは会長さ
んがいいから」「会長

「仕事をしていて心がけていることは?」。仕事への思いを聞き出そうと質問する生徒たち

